

臨床研究情報

【研究課題名】

胃癌 conversion surgery における低侵襲手術の意義

【研究機関】

主研究機関：京都大学医学部附属病院

共同研究機関：宇治徳洲会病院、大阪赤十字病院、大津赤十字病院、北野病院、京都医療センター、京都桂病院、京都市立病院、神戸市立医療センター中央市民病院、神戸市立医療センター西市民病院、神戸市立西神戸医療センター、公立豊岡病院、小倉記念病院、滋賀県立総合病院、新東京病院、天理よろづ相談所病院、日本赤十字社和歌山医療センター、姫路医療センター、兵庫県立尼崎総合医療センター

【研究責任者】

当院責任者 金谷誠一郎

研究代表者 小濱和貴

【研究の目的】

近年の化学療法が進歩によって、初診時にステージ IV もしくは切除不能と診断された胃癌でも化学療法後に根治切除を目指して行われる conversion surgery(コンバージョン手術)によって長期生存が可能となる症例も多くみられるようになってきました。また、近年胃癌に対して腹腔鏡手術やロボット手術などの低侵襲手術が行われるようになってきており、ステージ I~III の胃癌における安全性や有用性が示されてきておりますが、ステージ IV の胃癌に対する低侵襲手術の意義は明らかにされていません。

本研究は胃癌に対してコンバージョン手術を受けられた患者さんにおいて、低侵襲手術と開腹手術の術後短期及び長期成績を比較・検討することで、低侵襲手術の有用性を検討することを目的としています。

【研究の方法】

・対象：京都大学医学部附属病院及び共同研究機関において、初診時にステージIV 胃癌と診断され、化学療法後に胃癌に対する手術を2011年1月から2022年12月までに施行した患者さんが対象となります。

・方法：京都大学医学部附属病院及び共同研究機関からの患者情報は匿名化された後、研究担当者によってデータ収集されます。

・利用する情報：利用する情報はカルテに記載されているデータ(患者背景、術前治療情報、手術情報、病理所見、術後の短期及び長期的な治療成績、転帰など)です。

【個人情報の取り扱い】

この研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、あなた自身のプライバシーに関する秘密はすべて厳重に守られます。データは匿名化を行いますので、名前などの個人を特定できる情報が報告に当たって使用されることは一切ありません。

【外部への試料・情報の提供方法】

研究データは電子メールやインターネットを通じて、又は郵送やFAX等により共同で研究を実施している他の施設へ提供致します。その場合もデータは匿名化を行います。

【問い合わせ先】

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

ただ既にデータの解析が行われた場合や結果が公表された場合など、削除できない場合もあります。

この研究は国の定めた指針に従い、当院の医療倫理審査委員会の審査・承認を得て実施しています。

大阪赤十字病院消化器外科部

〒543-8555大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30

TEL 06-6774-5111 FAX 06-6774-5131

倫理審査委員会申請日 2023年 9月 21日